

No. 623【2024年10月18日配信】

館内展示「海峡をつなぐ」展示図書のご紹介(担当:鈴木美香)

こんにちは!歴史資料室の鈴木です。

10月10日(木)より、新しい館内展示「海峡をつなぐー青函ツインシティ 35 周年・八甲田丸就航 60 周年」が始まりました。そこで今週は、展示図書のご紹介をしたいと思います。今回はツインシティ(双子都市)にちなみ「ふたご」と「青函」「連絡船」、そして「海」「港」「灯台」「船」をテーマにしています。



8 階パネル展示のようす



8 階図書展示のようす

まずご紹介するのは、半田滋著『戦争と平和の船、ナッチャン』(2022 年 講談社)です。以前、青函航路を運航していた「ナッチャン」を覚えていますか?「ナッチャン Rera」「ナッチャン World」の姉妹船で、船体に描かれたポップな柄が特徴的な高速フェリーでした。この本の主人公は妹の「ナッチャン World」で、その就航からの歩みを一人称で語っています。

「ナッチャン World」は平成 20 年(2008)に定期便として就航しましたが、採算の悪化により短期間で運行が終了しました。その後、平成 30 年の函館マラソンの前夜祭会場になるなどイベントでの臨時運行や、東日本大震災の際に自衛隊の輸送船としても使用されました。現在は民間の観光船として運行されるほか、防衛省との事業契約により、自衛隊の災害派遣時の隊員や物資の輸送、また演習等の際の戦車の輸送船として運行されています。でも、実は「ナッチャン」には夢があって…。

つぎの 1 冊は、展示でご紹介している津軽海峡横断泳に成功した^{おさこ}尾迫千恵子さん(10 月 3 日に母校の沖館小学校で講演されました)にちなみ、木村敬一著『闇を泳ぐー全盲スイマー、自分を超えて世界に挑む。』(2021 年 ミライカナイ)です。

著者は、東京・パリパラリンピックと 2 大会連続で金メダルを受賞したスイマーです。彼は 2 歳で全盲となり、小学校入学と同時に寄宿生活を始めました。そして 10 歳から水泳を始め、シドニーオリンピック水泳金メダリストのイアン・ソープに憧れ、やがてパラリンピックに出場するまでに成長しました。ここには、盲学校時代に仲間と深夜に寮を抜け出したエピソードや、大学受験の失敗、睡眠障害の苦悩など、ひとりの若者の等身大の半生が、ユーモアのある筆致で綴られています。

メールマガジン「あおり歴史トリビア」(発行:青森市民図書館歴史資料室)

ほかにも、灯台の歴史を紐解き、技術を解説し、そこに関わった人の思いを伝える 日本財団海と灯台プロジェクト著『海と灯台学』(2022年 文藝春秋)、科学や歴史、神話などあらゆる観点から「海」に光を当て謎を解き明かす 藤岡換太郎監修『世界でいちばん素敵な海の教室』(2019年 三オブックス)、各界の著名人による海のエッセイと、海にまつわる歴史・文学・美術などを紹介する 伊藤玄二郎編『船の仕事、海の仕事』(2022年 全日本海員組合)など。いずれも美しい写真がたくさん掲載された、見て楽しめる本です。

この館内展示は令和7年1月7日まで、7階エントランスおよび8階で行っています。ぜひ、8階の図書の展示コーナーへも足をお運びいただければと思います。



7階エントランス展示のようす